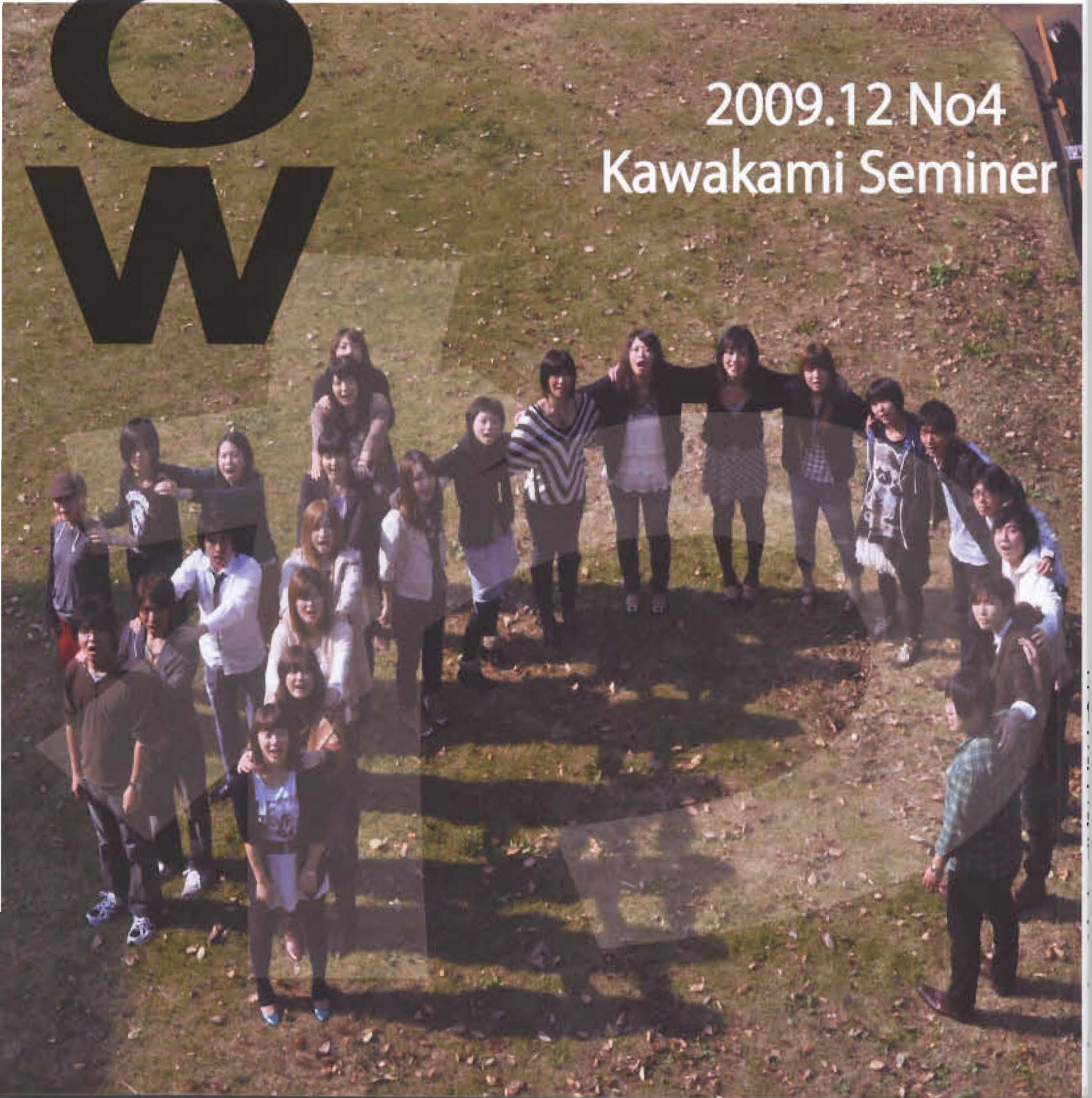


「わ」

あなたは何を
想像しますか

2009.12 No4
Kawakami Seminer

S
H
O
W



目次

着物から見える和の変化…11

下駄に魅せられて…15

和を温ねて（たずねて）…19

和コラム…22

倭～幾年の時を超えて～…26

倭コラム…41

住人十色…47

ヤマありオチあり笑いあり…52

拝啓、日本人様…58

話コラム…62

和

倭

話

輪

羽

羽

輪

話

倭

和

海外から見た日本…64

いまさら聞けない アジア問題…66

世界を繋げる助け合い…74

クールジャパンを世界へ…77

輪コラム…82

—つなげる、自分へ—…84

サキガケ！…90

翔ぶための同志…96

羽をあつめて…102

日本語日本文学会取材レポート…103

個人コラム…108

クールジャパン を世界へ



マンガやアニメをはじめとした日本のサブカルチャーが海外で高く評価され、人気を博している。日本のマンガ・アニメなどのコンテンツは、「クールジャパン」と呼ばれ、海外のマンガ・アニメファンたちが自らを「O T A K U」と呼び始めるなど、注目を浴びているのだ。では、なぜ日本のサブ・カルチャーは海外の人々を夢中にさせるのだろうか。その理由らしきものは幾つか想像できる。が、海外の人々が実際にどのように考えているのかについてはわからない。そして、マンガ・アニメなどのヲタク文化で溢れる国・日本が、海外の人々の目にどう映っているのかについても少し疑問が残る。

●コミックマーケットとは？

コミックマーケット（通称・コミケ）とは、マンガ、アニメ、ゲームなどの世界最大の同人誌即売会である。同人誌とは、同じような好みを持った人々（同人）が資

金を出し合って作成する雑誌のことで、コミケでは二次創作（原作の設定を元に、独自ストーリーの漫画・小説をつくること）の同人誌が主に売られている。

コミケは毎年8月と12月の年2回、東京国際展示場（東京ビッグサイト）で開催される。開催期間は3日間。8月に開催されるものは「夏コミ」、12月に開催されるものは「冬コミ」と呼ばれ、今回はその76回目にあたる。今年のコミケでは、初日だけで約18万人もの人々が来場したという。

実際に海外からお越しの方にインタビューしました!!

○KIRKEGARDさん 21歳女性 デンマーク出身
— 今回コミックマーケットに来場された理由は？

— 同人誌を買うためとコスプレヤーを見る為。

— あなたの好きなマンガやアニメは何ですか？

BLEACH、鋼の錬金術師

— 日本のマンガやアニメのどんなところが好きですか？

日本のマンガは様々なタイプのものがあって、色々な物語があるので、自分の国のマンガより面白い。

— 日本のマンガやアニメでよくわからないことや不快に思うことはありませんか？

文化が違うため、時々わからない話の時もある。でも不快に思うことはない。

— 日本についてどのような印象を持っていますか？

日本にはマンガやアニメがいっぱいあるのに、コミケとかコスプレとかあまり興味のある日本人は少ないように感じるので少し残念な気がする。

○LUDRIGSENさん 22歳女性 デンマーク出身
— 今回コミックマーケットに来場された理由は？
同人誌を買うため。

— あなたの好きなマンガやアニメは何ですか？
BLEACH、鋼の錬金術師、黒執事

— 日本のマンガやアニメのどんなところが好きですか？

ストーリーが面白い、昔からあるものに影響されていなくて斬新なところ。

— 日本のマンガやアニメでよくわからないことや不快に思うことはありませんか？

日本の文化に関係することだと、たまに話がわからないようになってしまうことがある。

— 日本についてどのような印象を持っていますか？
日本人はとてもおもしろいし、それぞれ良い趣味を持っていてと思う。そしてコスプレヤーはとても才能を持っていると思う。

実際にインタビューをしてみても、日本のマンガやアニメは、最近の作品も海外にきちんと届いていてファンがいることを実感した。ドラゴンボールやセーラムーンのような昔からある有名な作品だけでなく、鋼の錬金術師や黒執事のような最近のアニメも海外に浸透している。そして海外の人々に日本のマンガやアニメが支持されている理由として、自分の国にないものだからこそ、余計に強く魅力を感じているのではないかと思う。コミケに参加していた全員にお話を伺ったわけではないので、もっと様々な背景があるかもしれないが、彼らに共通しているのが、日本のアニメやマンガをカッコいいと感じていて、とても愛しているということである。

日本のMANGAが世界を変える?

日本の娯楽文化として、長い間定着しているマンガ。私たちにとっては、幼い頃から馴染み深く、マンガと共に成長してきたという人も少なくないだろう。今やそのマンガは、世界各国で読まれている。海外の人は、日本のマンガは凄いと言うけれど、一体何が海外の人の心を掴んでいるのだろうか。そして、マンガに溢れる「日本」は、海外からどのように受け入れられているのだろうか。

特にマンガに関しての出版物は5倍に伸びているとあります。しかし小学館の海外に版權を許諾する総収入が、右肩上がりです。フランスなどは、既にも多くのマンガが出版され、ある程度飽和状態にあり

ます。このためある程度で落ちてきている部分はあるのでしよう。小学館の出版上位5カ国は、1、台湾 2、韓国 3、アメリカ 4、中国 5、フランス。東南アジアでは海賊版の問題があり、日本で出版された後あまり間を置かずに出版されています。

海外でも人気のある作品は何ですか? どの国も日本でヒットしている作品は注目しているし、やりたいという出版社が多いです。「らんま1/2」、「大夜叉」は、特にアメリカの市場において、初めてマーケットを切り開いた作品なので、どの国でも人気が高いのです。あとはもちろん「ドラえもん」。巻数も多く種類も豊富で、売り上げも大きいですね。アメリカだと、マンガって「大人が読む」とみてもない」という見られ方をしている傾向が残っていて、青年モノのマーケットがなかなか育たないと言われていたんですけど、でも出してみたら、浦沢直樹先生の作品は、アメリカでもヨーロッパでも評価が高い。こういう読者が、これから青年モノのマーケットを引っ張っていくのだと思いますよ。

日本人特有の文化が前提にないと理解できない内容などはどう対処しているのですか? やはりそういった表現もあるので、やはり作品として完結しているものなので、が、作品として完結しているものなので、注釈などは減多に入れません。ただ、現地

海外における日本のコミック市場は、どの程度発展しているのですか? デジタルコンテンツ白書(※1)というものがあって、ここにはいろんなデータが載っています。例えばフランスの場合は、マンガ市場推移がこの8年間で6.4倍伸びていますし、アメリカも、特にマンガに関しての出版物は5倍に伸びているとあります。しかし小学館の海外に版權を許諾する総収入が、右肩上がりです。フランスなどは、既にも多くのマンガが出版され、ある程度飽和状態にあり

小学館の出版上位5カ国は、1、台湾 2、韓国 3、アメリカ 4、中国 5、フランス。東南アジアでは海賊版の問題があり、日本で出版された後あまり間を置かずに出版されています。

海外でも人気のある作品は何ですか? どの国も日本でヒットしている作品は注目しているし、やりたいという出版社が多いです。「らんま1/2」、「大夜叉」は、特にアメリカの市場において、初めてマーケットを切り開いた作品なので、どの国でも人気が高いのです。あとはもちろん「ドラえもん」。巻数も多く種類も豊富で、売り上げも大きいですね。アメリカだと、マンガって「大人が読む」とみてもない」という見られ方をしている傾向が残っていて、青年モノのマーケットがなかなか育たないと言われていたんですけど、でも出してみたら、浦沢直樹先生の作品は、アメリカでもヨーロッパでも評価が高い。こういう読者が、これから青年モノのマーケットを引っ張っていくのだと思いますよ。

日本人特有の文化が前提にないと理解できない内容などはどう対処しているのですか? やはりそういった表現もあるので、やはり作品として完結しているものなので、が、作品として完結しているものなので、注釈などは減多に入れません。ただ、現地

インタビュアーに伺った小学館は、他国で積極的にマンガ出版の許諾を行っており、海外に出資子会社も有している。今回は、海外の出版社と、著者の代理人として契約交渉などを行う、国際ライツ業務室で室長としてお仕事をされている加治屋文祥さんにお話を聞くことが出来た。



小学館のマンガは何カ国で出版されているのですか? 許諾の期間がある中で、現在すべてが市場にあるわけ

地の出版社には大体日本語ができる人いるので、その人が日本のマンガを読んだ上で「このマンガを出したいのですが」というオファーをもらうやり方を取っているんです。その上で、「この本をやりたいたったら、似たジャンルに実はこういうマンガもありますよ」といった、新しい提案もお返ししています。だから、実際ニーズを一番よくわかっているのは、現地の出版社なんです。例えばドラえもんなんかは、のび太が半ズボンで畳だしということで、東南アジアが背景を含めて圧倒的に理解されるんですけど、現にフランスでも出したという出版社がいて、フランス語でも出しているかというところ、やはり若干のハードルはありますが、決して理解できないわけではない。問題は、描かれている風景とか、背景とかっていうことよりも、マンガのストーリーなどを含めた文化なので、それがどのくらい理解できるかという事です。海外の人にとっては、本が右開きということ自体がまず珍しいので、そこでも文化的なハードルが生じます。



↑海外で実際に出版されているコミック本。韓国語版『品』、タイ語版『ドラえもん』、フランス語版『名探偵コナン』などがある。

てどこもありませよね。歌舞伎を向こうの人に合わせアレンジしたら、わかってもらえるのかって疑問もありませ。私た



↑インタビューに伺った加治屋文祥さん

ちにはビジネスと出して出版を許諾していいると同時に、あえて「文化」

—韓国では日本のマンガの逆輸入と言え
るような現象がありますが、これはどう
いうことを背景に起きているんでしょう
か？

当然、韓国や台湾でも才能のあるマンガの作家さんはいます。その例が『新暗行御史』（※2）。現在このマンガが日本で読めるのは、韓国の現地の少年ジャンプという雑誌に連載していた作家さんたちが日本の編集部と連絡を取り、企画を生み出したからなんです。韓国はマ

ケットが狭いので、いくらマンガを描いても結局人口の比率も違いますし、作品の成果としての収入も、日本とは違ってしまう。だから、韓国のマンガ家さんにとつては、日本に出て行くっていうのが、マンガのメジャーリーグに挑戦するような感覚でもあるみたいですね。それから、ビジネスのチャンスも広がるっていう風に思っている作家さんも多いので、その思想が一致したっていうのもあると思います。

それから、例えばフランスには「バンド・デシネ」（※3）っていう、もともととちよつと日本とはスタイルが違うマンガが、ちゃんと文化としてあるので、そういう国はマンガに対しても寛容です。作品やキャラクターが日本に入ってきて不思議ではないですね。

—日本に関して、「反日感情」を持っている
ような国での出版状況について教えて
下さい。

反日感情を持っていたとしても、それがどの程度のものかとか、どの国が特に強いのかっていうのは、なかなか捉え方が難しいと思うんです。例えば中国の場合、反日感情かどうかは別として、自国の産業の保護のために、日本から新しく許諾するマンガのタイトルを今年は3タ

イトルです、という風に制限してあります。だからといって中国の人が反日なのか、っていうと、例えば『ドラえもん』や『名探偵コナン』は、中国の中ではかなり広く読まれていますし、そのことは別に何の問題もなく行われています。

どんなに反日に政治的な意味があったとしても、作品は別に政治には関係していませんし、どこでも受け入れられると思います。むしろこれで日本を理解してもらえれば、「日本も面白いもの作るじゃん！」っていうことで、多少なりとも、それこそ日本の文化の一面を分かっても、ええれば、役に立つのかもしれない。

—海外にコミックを出版していく上での苦
労にはどういったものがありますか？

今の話と裏返しみたいになります。例えばイスラム圏っていうのは、肌の露出度合などの表現に対して非常に厳しいので、「この絵は無理なので、こういう風に変えてもいいか」という風に、現地の出版社が修正したものを送ってくる場合があります。それは、編集部と先生で最終的な判断を決めるのですが、その国々によって、「センサーシップ」（※5）っていう、倫理基準みたいなものが色々あるんですね。だから、日本にとつては何の問題も無いのだけど、例えば

ドラえもん、しずかちゃんがお風呂に入っている、というシーンがあるとしても、これが国によっては捉え方の違いで、大人向けの読み物になってしまふので、子どもが読めないんですよ。カバーにセンサーを記した帯を巻いたりとか、何歳未満は駄目です、っていうようにして売られることもあるんです。

センサーシップっていうのが一番、日本ではなかなか考えられないような問題、クリアしなきゃいけないことが起こるところだと思えますね。

—日本製のコミックのどういったところが
海外の人の心を掴むのでしょうか？

日本のマンガっていうのは、いろんな意味で、アメリカやフランスのコミックとも違う独特の文化と雰囲気を持っています。それを理解されて、面白いと思ってもらえるからこそ広がると思うんですよ。結果として、例えば最近、ハリウッドも『ドラゴンボール』のように、日本のマンガをベースにして、映画を作っているクオリティとか、ストーリー性とかっていうのが、映像化にも耐えられるような、非常によく出来たものだと思う。それが逆に証明されていると思う。ちゃんと感情表現や、キャラクターっていう

ものが活きていて、すごく表現されている。って言うことが、充分あるんだと思いますよ。評価もされているし。最近では「国際漫画賞」(※4)も日本で始まり、ロシアの作家さんが受賞したりも



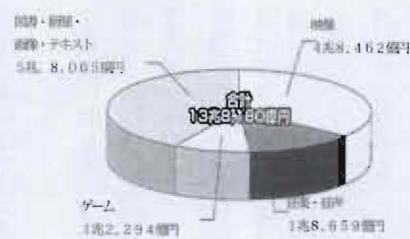
↑ロシアのセントペテルブルクにある書店。マンガがずらりと並んでいる。

て、世界中にマンガの作家さんがいます。やっぱり世界的に広がっているんだと思いますね。

—マンガ、アニメの溢れている日本という国は、海外からどのように思われているのでしょうか？

それは、なかなか僕らにも分からないんですけど(笑)。でも、日本の製造業的でないコンテンツを海外へ輸出しているという国の方策に、日本のマンガやアニメっていうのは、ちゃんと基準が到達していて、1つの産業として認められるくらいの力を蓄えてきている、っていうのはあると思います。市場規模でい

と、出版産業は2兆円しかパイがないので、大分厳しいものがあるのですが、そ



れを核として商品化されたりと、色んな周辺の産業が最近注目されてきて、認められるようになってきています。

ただ、国々で異なった文化があるので、どのように認められるかは、今後にも当然関わってくると思います。

子どもたちがマンガを面白いと思ってくれば、やはりその後の世代の子どもたちも読むんですよ。だから、子どもの時代の読者が段々大人になってきて、自分の子どもが出来たときに、「私もマンガを読んで育ちました」というサイクルになってくれば、段々文化として定着してくるんですけど、やっぱりマンガは、ある意味で外に出始めてそんなに時間が経っていないので、これからどんどん定着が出来てくれば、評価も変わってくる可能性は高いです。それに小説は、文化を背景とした文字で凝縮されている世界なので、それを現地の言葉に置き換

えても、なかなか伝わらないんだけど、マンガの場合は絵がついているので、国の壁は越えやすいんですよ。それがかなりバリアを低くして海外に出やすくしていると思う。まだ色んな発展の余地はあるし、方法や伝達手段はまだまだ広がってくると思います。そうなったときには、さらに「マンガ」って言われるものの評価も変わってくるはずですよ。

—今後、小学館の国際ライセンスが目指していくことは何ですか？

世界中で、マンガっていうものが広がってくることです。十分にマンガが入っていない状況の国々はまだいっぱいありますし、日本が少子高齢化していく一方で、海外では実は、どんどん子どもが増えています。人口が伸びている国はいっぱいある。オーストラリアやインドなど、マンガの市場として未開発に近い場所がまだまだ残っているので、素晴らしい日本の文化を背景としたクリエイティブな作品を全世界の子どもたちが読めるようにしていきたいです。

世界に広まるマンガは、国同士を隔てる問題をも通り越して、人びとを楽しませることが出来る日本独自の文化だと感じました。

加治屋さん、貴重なお話をありがとうございました。

注釈

※1…デジタルコンテンツ白書

財団法人デジタルコンテンツ協会(CAJ)が発行している、コンテンツ産業の市場規模、産業動向等の現状を解説、紹介する本。

※2…『新暗行御史』(しんあんぎょうおんし)

小学館のコミック誌「月刊サンデーGX」に連載されていたファンタジーマンガ。原作は尹仁完、作画は梁慶一が担当。日本でも珍しい韓国人による連載マンガ。

※3…バンド・デシネ

ベルギー・フランスを中心とした地域のマンガのこと。有名な作品に『タンタ』などがある。

※4…国際漫画賞

2007年に創設された日本の外務省が主催する漫画の賞。日本の国籍以外のマンガ家を対象にしている。

※5…センサーシップ

出版などを事前に検閲したりして、差し止めるための行為。